

「やる気応援奨学金」レポート

フランスで国際人権法を学ぶ
自ら環境作り出す大切さ実感

法学部国際企業関係法学科四年 宮崎 柚香（私立中央大学附属高校）



はじめに

私は中央大学で国際協力に興味を持ち、女性と子供の権利に関するさまざまな問題に目を向けてきました。三年生になると、就職活動や大学院進学などの進路の分岐点に立ちました。残りの大学生活をどんなふうに通ごしたいか、その経験をどこでどんなふうに関わりたいか。それらについて考えた時、フランスの大学での一年間の留学に挑戦してみたいというのが私の答えでした。就職活動に乗り遅れることに不安はありましたが、一年後自分がどのようになっていきたいかが明確だったため、迷わず

決意することが出来ました。

エクサンプロヴァンスの町

私が一〇カ月間生活をしたエクサンプロヴァンスは、フランスの南に位置する小さな町です。北に行けば山やラベンダー畑があり、南に行けばマルセイユの海が広がる自然豊かな場所です。一年の中で晴れる日が多く、温かい気候の南仏ならではのハーブや蜂蜜、ワインなどが人々の生活の中で大切に使われています。町の中心街には大きな噴水があり、そこから延びるミラボー通りには生活に必要なすべての店がそろっています。日本ほど便利な場所ではありません

んが、素朴で自然豊かな町で私の留学生活はスタートしました。

語学学校で気付いた「甘え」

一〇月から一月まで、私は大学と並行して大学附属の語学学校に通うことになりました。日本でもCDやラジオなどで耳を慣らしていましたが、現地の人たちの話すフランス語のスピードは予想以上に速く、到着した当初はほとんど理解出来ませんでした。私はちょうど中間レベルのクラスに入り、基礎を固めると同時に発展的な内容も学習出来ました。先生はとても厳しい人で、自信のない私にはとても楽しい授業とは言えません

でした。しかし、どんなレベルであつても熱心に向き合ってくださいました。今では本当に感謝しています。また、クラスではアメリカ人、中国人、ブラジル人、リビア人などさまざまな国から来た生徒がそれぞれ将来の夢のために学んでおり、毎日がとても刺激的でした。フランス語はイタリア語やスペイン語、英語にとってもよく似ています。そのため欧米人のフランス語習得スピードは速く、日本人の私は時間を掛けてもフランス語が上達しない現実を悩むことになりました。フランス人の友達に相談をすると「柚香は日本人だから仕方がない」と慰めてくれたため気持ちが悪くならず頑張れました。しかし同時に、そのような優しい友達に慰められていた自分があることも気付きました。このままアジア人としての言語的ハンディキャップを理由に友達との優

しい慰めの言葉に甘えて暮らしていても、日本にいた時の自分と何ら変わらないと自覚しました。

環境は自分で作るもの

自分の「甘え」を自覚してからは、とにかく一分一秒でも多くフランス語に触れる時間を作る努力をしました。フランスにいれば自然とフランス語を話す機会が豊富

にあるはずだと考えがちですが、友達にも生活のベースがあるため自分から積極的に連絡をしなければ一日中部屋にいることも可能な環境でした。そこで私は、フランス人の友達や仲が良かったスペイン人との友達に頻繁に連絡をし、週末には一緒に出掛けるよう積極的に企画をしました。また、語学学校では扱わない法律文書やニュー

ス記事を準備し、音読で間違った発音をすべて正してもらったり、レッスンも友達にしてもらいました。初めはきちんと読めなかった文書もどこで区切るのかなど細かく教えてもらい、最後には「日本人の友達の中で袖香が一番上達した」と言ってもらえました。そのほかに、寮の同じ階に住む友達の部屋でお茶を片手にテレビを見たり、その

を履修しました。大学の授業は大教室の講義を受けるという形式でした。学生のほとんどはパソコンを使って教授の話したことを書き取っていきます。前期は、語学学校に通いながら大学で憲法を履修し、平和学や国際公法も聴講しました。後期には、学ぼうとしていた国際人権法のみならず、EU法や国際人道法など幅広く勉強することが出来ました。どの教科も日本で一度触れたことのある教科でしたが、一つ違う点は問題を考えて際の軸が常にEUにあることでした。そのため、EUやEU法の知識は必須であり、ドイツ、スペイン、イタリアなどの主要な国々における問題の捉え方も同時に学ばなければなりませんでした。

日の出来事をおしゃべりする時間も設けました。このような日々の努力により、四カ月後には普通に生活出来るようになってきました。自分にとって有意義な時間を望むのであれば、他人に期待をせず自らアンテナを張って動くことが何よりも重要でした。環境は「与えてもらう」のではなく「作り出す」ことが大切であることを実感しました。

大学での授業

私は大学の法学部に所属し、一年で五つの授業

私が履修した基本的自由権の授業では、権利と自由の概念の成り立ちなどの基本的知識を蓄積することから始まりました。その後、出版の自由とプライバシーの対立や、たばこの広告に関する権利対立などの事例を見てきました。特に私が最も興味を持っている女性に関する妊娠中絶の権利では、



スペインの友人の実家へ

とても興味深い講義を受けることが出来ました。妊娠中絶は、長い間多くの国で法的に禁止されてきました。ヨーロッパを例に取ると、かつて宗教上の理由からイタリアでは中絶の議論は拒否され、カトリック教徒の多いアイルランドでは今でも禁止され続けています(二〇一三年七月一部改正)。ここで問題となるのは、女性の中絶することの権利と子供が生まれてくる権利のどちらを優先するのかわかることとです。つまり女性が自分

の人生を選択する自由が認められるかということが問われるのです。この問題は非常に難しく、倫理観、宗教観によって各国の憲法裁判所の見解は異なりました。この授業の中で私が考えたことが二つあります。

まず、社会的背景、宗教的背景がそれぞれ異なる国々によって、同じ問題でも結論を出すプロセスが変わってくることを再認識しました。実社会に即してフランスにとどまらずアメリカやイタリア、

ドイツやアイルランドにおいての女性の権利の位置付けが変遷し、長い年月を掛けて法に反映されていきましました。このように、さまざまな要素が複合的に議論され、法は変わり社会が変わっていくことを改めて学びました。

また、今世界で起きている権利侵害を考える時、自分自身の価値観のみで白、黒を付けるのは危険であると感じました。そこに暮らす人々の国民性、社会的・宗教的背景を理解しない限り、権利の本質は見えてこないということを再確認することが出来ました。

ヨーロッパ人権裁判所で傍聴

フランスのストラスブールには

ヨーロッパ人権裁判所やヨーロッパ評議会などの重要な諸機関が置かれています。私は五月一五日に行われたVukovic(セルビア人軍人) 对セルビア政府の裁判を傍聴する機会を得ることが出来、一人でストラスブールに向かいました。早朝から裁判関係者が多く集まり、少々緊張感のある雰囲気の中ゲ

毎週行われるマルシェの様子



友達の家のクリスマスパーティーで



トをくぐりました。私は別室の裁判傍聴席に通され、スクリーンで裁判を傍聴しました。言語は英語とフランス語に通訳されます。普通の裁判と違う点は、やはりEU

の枠組みで成り立っているため裁判官の数が多いことでした。また、さまざまな人種の方々が傍聴に来て裁判を見守っていることもとても印象的でした。日本でも人権問

儉約から教わる本当の楽しさ

フランス人は儉約家であるということは、日本人の間でも有名な話です。決してけちなわけではない、お金を掛ける時と掛けない時のめりはりがしっかりしていると感じました。日本では親睦を深めるために居酒屋に行きますが、フランスではホームパーティー形式で全員が食事やお酒を持ち寄っておしゃべりを楽します。誰がどのようにその食事を作ったのか、それだけで会話が生まれその場に参加している全員と楽しい時間を過ごすことが出来るのです。また、フランスのレストランはとても高いため、ピクニックも頻繁に企画しました。ピクニックと言っても、町のパン屋で買ったバケットにスーパーで買ったチーズを挟むだけのお昼御飯を公園で食べるだけです。ただ一緒に芝生に寝そべるだけで会話が弾み、季節が移り変わったことや留学生活の話など話題は尽きませんでした。そのような一時間を掛ければレストランよりも安く、楽しく出来ることも、い

つしか便利な日本の生活の中で忘れていたような気がしてとても新鮮でした。わずかな工夫で、何倍にも楽しい時間を過ごせることに気付けたことも収穫の一つでした。

最後に

一年間という長期間の海外生活は、すべてが易しく楽しいことばかりではありませんでした。しかし、そのような環境に身を置くことで、弱い自分や強い自分とたくさん出合い、対話することが出来ました。私は現在も就職活動中ですが、この一年をフランスで過ごすことと決めて本当に良かったと思っています。これから社会人になっても、フランスで過ごした日々を糧に全力で頑張りたいと思います。最後になりましたが、「やる気応援奨学金」を御支援してくださっている皆様、アドバイザーをくださった先生方、留学という挑戦を理解してくれた家族、そして私を支えてくれた世界中の友達、すべての方々に心から感謝の意を述べたいと思います。本当にありがとうございました。



フランス人の友人とアムステルダムにて

題について多くの議論をし、研究を行いました。ですが、実際に目の前に法に基づいて争われていると考えるととても興奮しました。ここで感じた多くのことを大切にしながら、今後も人権法について深く学んでいきたくて強く思い直すきっかけにもなりました。